



大審院長。宇和島城下(現、宇和島市)出身。脱藩の際に仮に用いた児島惟謙を終生名乗った。剣道に秀でていたことから土佐国(現、高知県)に遊学、さらに長崎に出て坂本龍馬や五代友厚らと知り合い、後に脱藩して討幕運動に参加、戊辰戦争にも従軍した。明治維新後は新潟県御用掛、品川県少参事を経て司法省に出仕、司法卿・江藤新平に見出され、名古屋裁判所長、長崎控訴裁判所長、大阪控訴院長などを歴任後に大審院長(現在の最高裁判所長官に相当)となった。大審院長就任直後、来日中のロシア皇太子を警備巡査が切りつけるという大津事件が起こり、その巡査の裁判に際して、政府はロシアへの体面から裁判所に対して、法をまげて死刑に処するように求めた。しかし、大審院長として惟謙はこれに屈せず、担当判事を励まし、無期徒刑の判決を下させ、司法権の独立を守り「護法の神様」と

いわれた。後、貴族院議員や衆議院議員となり国政にも尽くした。

略歴

天保8(1837)年2月1日	宇和島城下の堀端通りに金子家の次男として生まれる。
慶応元(1865)年	長州から長崎に赴き、坂本龍馬と知り合う。
慶応3(1867)年	脱藩して京都に潜伏。勤王の志士として活動。児島惟謙と称する。
明治元(1868)年	戊辰戦争では、征討軍として転戦
明治2(1869)年	品川県少参事となる。
明治4(1871)年	司法省に出仕
明治9(1876)年	名古屋裁判所長に就任
明治14(1881)年	長崎控訴裁判所長に就任
明治16(1883)年	大阪控訴裁判所長に就任
明治19(1886)年	大阪控訴院長に就任。関西法律学校(現、関西大学)の創立に参画
明治24(1891)年	大審院長に就任。大津事件発生
明治25(1892)年	大審院長を辞する。
明治27(1894)年	貴族院議員に勅選される。
明治31(1898)年	第5回及び第6回衆議院議員総選挙で当選(同35年まで)
明治38(1905)年	再び貴族院議員に勅選される。
明治41(1908)年7月1日	72歳で永眠。墓所は東京都品川区南品川の海晏寺

(写真提供：宇和島市立中央図書館)

〈関連図書〉

- ・家永三郎『大津事件日誌』 平凡社 1976年
 - ・青野暉『児島惟謙小伝』 児島惟謙先生銅像建立委員会 1980
 - ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第9巻 児島惟謙・穂積陳重・重遠・安倍能成』 愛媛県教育会 1985年
 - ・田畑忍『児島惟謙』 吉川弘文館 1987年
 - ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
 - ・村井正『児島惟謙の航跡』 関西大学法学研究所 1996年
 - ・楠精一郎『児島惟謙』 中央公論社 1997年
 - ・村井正『続・児島惟謙の航跡』 関西大学法学研究所 1998年
- 〈ゆかりのある場所〉…(P287, 93~95)